

建設業の人材確保に向けた懇談会 概要報告

上記懇談会につきまして、下記の通りご報告致します。人材確保に向けた参考資料としてお役立て下さい。

記

主催：北海道商工会議所連合会、北海道建設業協会、建設産業専門団体北海道地区連合会

日時：平成27年1月23日（金）13：30～15：00

場所：北海道経済センタービル3階 特別会議室B

内容：業界の現状と課題や取り組み、行政の取り組み、業界に対するイメージ、就職の考え方等について懇談

出席：保護者、道教育庁、道建設部、道建協、建専連北海道、札幌建協、道商連、札幌商工会議所、江別商工会議所

内容：保護者から提起された課題は以下の通り

- ・ 建設業出前講座は工業高校生だけを対象としても、人材確保に広がりが出ない。普通科こそ情報少なく、出前講座をやるべきではないか？
- ・ 業界の3K イメージを変えようとする取り組みはドンドン発信するべき。冬季の収入面や積雪ない地域への期間出張仕事なのか？など情報発信が足りていない。
- ・ TV「ビフォーアフター」「アスコーマーチ」は子供も見ており、建築士等への憧れに繋がっている。人材確保につなげられないか？
- ・ 建設業界の知人等は仕事減など苦労話が多く、周囲は悪いイメージが先行する。
- ・ 「この施設の建築に携わった」とエピソードはうらやましい。建設業は成果が永く残るので、もっとイメージを良く出来る方法があるのでは？
- ・ 小学生等の仕事体験は重要でこの年齢時期に「ものづくり」を体験させるべき。現状、仕事体験イベントは希望しても抽選などで参加できない場合が多く、機会提供が不十分。技能フェスの認知度が低く、もったいない。
- ・ 小学生の夏冬休みの自由工作を手伝ってあげれば建設業のイメージアップに繋がるのでは？小学生は女の子も「ものづくり」に興味がある。

- ・ 東京オリンピックは社会資本整備が促進されるなど市民イメージが良く、建設業もその役割を PR すべき。
- ・ 建設業は学歴優先で工業高校卒では資格がないと働けない、とのイメージ。また、管理者は高学歴で末端になるほど厳しい仕事のイメージが強い。
- ・ 母親は、自分が身近に見ている仕事を我が子に進める場合が多いのでは？母親の就職決定権が強い場合が多い、との調査結果はその通りと思う。

その後の自由懇談では

- ・ 道内全域でインターンシップに取り組んでいる中、受入企業募集は現場対応なので、建設業の受入れ先を確保して欲しい、との声があれば建設業に受入をお願いする場合もあると思う（行政）
- ・ 近所関係も希薄化して隣人がどんな仕事の人かわからないようでは、子供たちの仕事の興味も薄れる。昔は先生もいろいろな業界の仕事内容を知っていたが、現在は、先生が様々な仕事を知らない事で就職が一定の業種に偏り易い可能性があるのでは？インターンシップの受入現場を見ると、業界の仕事の説明できない先生もいる（業界）
- ・ 専門工事業はモノづくりの楽しさを PR しなくてはならない。先生方も、力学などの学問だけではなく、現場のことも知ってほしい。現場では、人に使われ、人を使う、が、この人間関係の教育が足りない（業界）
- ・ 更衣室・トイレ問題を解決しないと女性は嫌がる（保護者）
- ・ 新卒者の就職率ばかり注目され「定着率」はあまり気にされない。仕事をすぐやめてしまう環境は問題であり、企業、学校、保護者が協力し改善すべきではないか？（業界）
- ・ 自分（親）の仕事も残業などで楽ではないが、我が子は身近で見ていることで仕事の理解をし、なりたい職種の一つに入れている。厳しい＝やりたくない、と考えるのではなく、更に情報発信が必要ではないか？（保護者）

職業体験もつと早く

建設業 人材確保で 高校生の母親と懇談

道商連など

深刻な人材不足を解決するため、高校生の職業選択で最も影響力がある母親から、建設業に対するイメージや意見を聞く懇談会が23日、札幌市内の道経済センターで開かれた。母親からは「もっと小さいころから職業体験をさせてもいいのでは」などの有意義な提案があった。

北海道商工会議所連合会と北海道建設業協会、建設産業専門団体北海道地区連合会の主催。3者が連携して取り組む人材確保対策の一環として、初めて実施した。道建協の地方組織である札幌建設業協会の聞き取り調査などによると、工業高校生は卒業後の職業として建設業に興味を示すものの、就職行動では避ける傾向にあることが分かった。

また、道建協のアンケート調査で、生徒が進路相談する相手は「母親」が最多の31%を占めたため、強い影響力があると判断して懇談会を企画した。中学生や高校生の子どもを持つ母親7人が参加。道商連の安孫子建雄産業振興委員長は「建設業への理解を深め、改善点やアイデアを寄せてほしい」と期待を寄せた。建設業の現状について



建設業の現状について、道建協の地方組織である札幌建設業協会の聞き取り調査などによると、工業高校生は卒業後の職業として建設業に興味を示すものの、就職行動では避ける傾向にあることが分かった。

道建協の牧野光博専務理事は「公共事業の削減により、リストラや新卒者の採用抑制、倒産・廃業、3K(きつい、汚い、危険)という厳しいイメージが定着したのでは」と推測。その上で「業績は回復している。地域や企業の営みに不可欠である」と述べた。

母親を持つ建設業への印象で共通していたのは「体力的にきつく、冬の間は仕事がなく雇用保険をもらっていない」などで、悪いイメージが浸透していることが浮かび上がった。しかし、懇談会での説明を通じて、30代の母親は「建設業の役割や仕組みが理解できた。イメージが独り歩きしていた。業界を理

母親が職場環境の改善に向けて数々の提案を寄せた

り、自然災害の応急復旧に出向く、誇り高い産業」とアピールした。建専連北海道の熊谷誠一副会長は元請けの総合建設業と下請けの専門工事業の違いを説明し、「専門工事業は26職種あり、現場のプロフェッショナルとして働いている。高校生や子どもたちを対象に職業体験の催しも実施している」と述べた。

解してもらった今回の企画そのものに好感を抱いた。もっと詳しく聞きたかった」と感想を述べた。また、40代の母親は「高校生の職業体験では遅い。小学生のころから親子体験ができれば職業選択の幅が広がり、意識も向く」と提案。「建設業は通年雇用で安定性のある職業になってほしい」と望んだ。

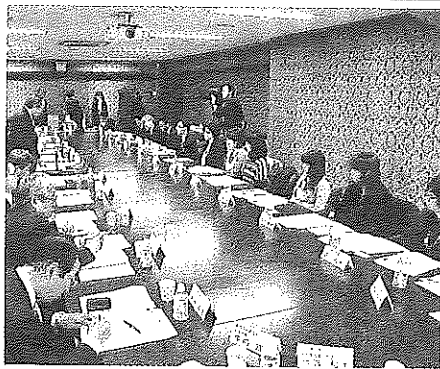
札幌建設協会の野村幹夫専務委員長は「有意義な懇談だった。職場環境を改善するたび、その成果を発信したらどうか」という提案も参考になった。中長期の人材問題を解消するため、もっとPRに努めたい」と手応えを感じていた。

学生の保護者との懇談会―道商連

建設業知る機会増やして

取組の発信でも意見

一般社団法人北海道商工会議所連合会と一般社団法人北海道建設業協会、建設産業専門団体北海道地区連合会は二十三日、札幌市内の北海道経済センターで、学生の保護者との懇談会を開催した。写真。建設業



の人材確保対策の一環として開いたもの。参加した母親六人は、建設業のイメージアップや人材確保に向けたPR方法などについて意見。就業環境改善の取組を発信することや、小生対象の体験型イベントを増やすことなどを提案した。保護者との懇談会は、建設業のPR漫画『たぐいまる』の発行に続く、三団体合同プロジェクトの第二弾。学生の進路選択に影響をもつ母親の生の声を聞き、今後の取組の参考に

しようで開催した。懇談会には、三団体の代表者のほか、道建設部、道教育委員会から担当者が出席。中・高・大学に通う子どもをもつ母親六人が参加した。三団体の担当者は、建設業が社会で果たす役割の重要性や、現在直面している課題について説明。就業者の高齢化や若年入職者の減少などに言及し、「危機感以上のものを感じている」と訴えた。高校生を対象とした現場見学会やPR漫画の発行などを実施していることも報告。情報発信に注力しているが、実際の就職に結びついていない現状を説明した。

道建設部、道教育委員会が人材確保に向けた支援策を説明したあと、母親との意見交換を実施。母親からは、「冬場に仕事がないなど、イメージは悪い」と率直な意見が上がる一方

で、「変えようと努力していることを知り、イメージが変わった」との声もあり、改善点をもっとアピールするよう求めた。PR方法については、建設業を知る機会を増やすことが重要と指摘。「中学生になると興味のある分野が決まってしまう。小学生が体験しながら学べるイベントを開く」と提案した。

懇談会終了後、母親の一人は「きょう知ったお話しは、フェイスブックで発信するつもり。多くの方が懇談会に参加できれば、お母さんのもつネットワークで一気に情報が広がると思う」と話していた。

三団体は、母親の声をさらに聞こうと、第二回懇談会の開催を検討する考え。親子現場見学会とセットでの開催など、実施方法を含めて検討していく。



保護者からは建設業を知る機会を増やすべきなどの意見があった

道商連ら

人材確保に母の声 学生保護者と懇談会

北海道商工会議所連合会と北海道建設業協会、建設産業専門団体北海道地区連合会は23日、札幌市中央区の北海道経済センターで中学校、高校、大学に通う子どもを持つ母親ら7人を招き「建設業の人材確保に向けた懇談会」を開催した。

学生の進路選択に影響力を持つ保護者の声を聞き、今後の取り組みに反映させていく

ことを目的としたもので、建設業の人材確保、建設業のイメージアップや入職促進に向けたPR方法などについて意見交換した。

冒頭、あいさつした北海道商工会議所連合会の安孫子建雄産業振興委員長は「建設業への理解を深め、改善点やアイデアを寄せてほしい」と述べ、保護者に積極的な提案を求めた。

各団体の担当者は、建設業が社会で果たす役割の重要性や現在抱えている課題について説明し、就業者の高齢化や若手入職者の減少などについて危機感を訴え、実際に高校生を対象とした現場見学会やPR漫画の発行などを実施していることを報告した。

母親からは、イメージアップに向けてさらにアピールする必要性や、建設業を知る機会を増やすことが重要などとの声があがった。